

## 第2回中播磨新地域ビジョン検討委員会 議事録

1 日時 令和3年3月19日（金）16:00～18:00

2 場所 姫路職員福利センター3階 大会議室

### 3 内容

#### (1) 部会における検討結果について

##### ①観光交流部会

➤ 資料3「部会における検討結果」に基づき、検討結果を説明

➤ コメント

##### 〈委員〉

- ・観光交流については、姫路城が非常に大きなインパクトを持っているが、姫路城を訪れる観光客とそれ以外の地域の観光を繋ぐことが、イコールになるのかどうかは疑問である。
- ・我々は姫路城を観光資源だと思っているが、実は我々の心の中のシンボリックなもの、ランドマークが姫路城であるのかもしれないと個人的に感じている。他から来る人がそれほど姫路城を観光資源として捉えているのかどうかも考える必要があるのではないか。
- ・地域を再生するには、年配の方や既存の団体の運営のあり方を変えていき、少しずつプロフェッショナルな取組を入れていかないと2050年に向けて維持していくことは難しいだろう。

##### 〈委員〉

- ・観光交流部会の検討結果でありながら、産業にも暮らしにも関わってくる内容である。
- ・諸説あるそうだが、姫路城は、江戸時代から明治時代が変わる時に、26円で売られそうになったという説がある。そのことを思い出しながら、「価値のない空き家は発想を変えて壊す」という提案があるが、私たちが今考える価値と30年後に考える価値はおそらく違ってくるのではないか。今価値がないと思っても、一旦は思考を保留して、捉えなおす、育みなおすという動きが世界的に主潮流ではないかと思う。

##### ②産業部会

➤ 資料3「部会における検討結果」に基づき、検討結果を説明

➤ コメント

##### 〈委員〉

- ・今回の新ビジョン検討では、現在の2020年の時刻で考えることと、2050年の時刻で考えることの2つがある。技術や産業のあり方は変わってくるので、この辺りは非常に読むのが難しい。

- ・現在、我々は「外国人労働者」という表現を使っているが、2050年になると外国人は、労働者なのか生活者なのか。労働者という枠を超えて生活者になっているかもしれない。これは少し議論の余地があると思う。

### ③暮らし部会

- ▶ 資料3「部会における検討結果」に基づき、検討結果を説明

## (2) 意見交換

### 〈委員〉

2050年に向けて、少子高齢化は避けることができない問題だと思う。必ず人口が減る状況下で、中播磨だけ人口維持や人口増加させようとした場合、他の地域から人を呼んでくる必要がある。今から子どもを産んだとしても、急激に増えるわけではない。ただ、それは悪いことなのか。それに沿った形も十分に考える必要がある。

外国人労働者が生活者になるというキーワードが大事だと思う。神戸で行われたJICAのイベントに参加したが、阪神・淡路大震災のときにベトナム人がどのような過ごし方をしたかなど、ベトナム人の防災意識をテーマにしたイベントで、非常に興味深かった。神戸市長田区のFM放送局であるFMわいわいでは、多言語で情報発信している。厳しいことを言うようだが、姫路市のFM放送局やケーブルテレビは、何をしたいのかよく分からず、訴えてくるものがないため、内容を絞るなど、見直した方がいいと思う。大阪のFM802の役員とコラボレーションの相談をしているが、彼らの着眼点としては、播磨は、大阪から1時間も掛からない場所にある、田舎ではない面白いまちという認識を持っている。今後、FM802が姫路を中心とした播磨で、様々なイベントをしたいという話が出ているので、面白いと思っている。

### 〈委員〉

IoTや5Gなど先端技術の活用について、産業部会では、産業の効率化という観点で議論されていた。観光や交流の分野では、ゲストスピーカーから、自動運転や運転支援の機能がこれから一番に人の動きに影響を及ぼし、車の運転は運転支援機能で広域化していくとの示唆があった。関係人口の増加や地域に留まることを考えると、車移動の広域化により、通勤圏が広がっていく可能性がある。神戸や大阪等の遠方の勤務地が、通勤圏になるのではないかと。先端技術が発展していくことで、働き方や生き方、生活圏、通勤圏が変わり、違う形になるのではないかと感じた。

キーワードは「多様化」だと思う。それぞれの生活の多様化に伴い、多様化を地域で受け入れる土壌も必要になる。県の将来構想試案でも「開放性の徹底」というキーワードが含まれているが、地域をこれから維持していくためにも、「多様化」は大事なキーワードだと思う。

### 〈委員〉

観光交流部会で話し合った内容だが、一次交通、二次交通を今後30年どのようにして維持していくか、そして新しく繋いでいくということが、福祉に関しても地域間交流に関しても、すべてにおいて大きなテーマにならざるを得ないと感じている。

農業について、「儲かる農業」という言葉が出てきているが、大規模にすれば儲かる

のかという疑問は感じている。家庭菜園などの「趣味の農業」は今後ますます広がっていき、健康福祉や環境整備等の面からも、大きなキーワードになってくる可能性があると思う。

また、情報が発達し、早い速度で広がっていく中で、今後30年を考えると、先ほどの大規模農業にしても、全国で同じようなものが羅列され、6次産業化も似通ったものが増える傾向が一層高まってくる。そうした中で、中播磨らしさの農業や産業をどのようにするかは、相当知恵を絞らないと、市場や顧客との距離感、運賃に食われてしまう時代になってくると思う。配送業者も運ぶ品物を選ぶ時代になってきており、その中で、中播磨で生産された機械工具や農産物、様々な化学製品等をどのようにして市場に届けるのかという運送システムそのものを考えないと、他の地域に運送コストで負けてしまい、頑張っても勝てないということが発生してくると思っている。

空き家問題に関しては、自然豊かな神崎郡地域をイメージしがちだが、姫路市の郊外では神崎郡よりも田舎な地域もあり、空き家も非常に多いのが現状だと思う。市川町や神河町だけの問題ではなく、都市部の空き家をもっと問題になっていくと感じている。

全体に串を通すテーマとしては、「交通」「情報の行き交い」「物流」等が気になった。

#### 〈委員〉

漁業がどのような世界かということはまだまだ知られていない。農業は自分で畑をつくることもできるが、漁業は見えない魚を追っているというのが現状であり、自然環境に非常に左右されている。また、漁業は危険な仕事である。我々は子どもの頃から釣りをし、どのようになれば天気が悪くなるのか、肌で感じて成長してきたが、最近は親が子どもに危険なことをさせないようにしている。何がどうなると危険で命に関わるかを教えないといけない。例えば地震が発生し、家が流された、あるいは食べ物や水がないといった時に、どうするのかということを教えておかないと、その時になって何もできない子どもが増える。いかに自然界に対応できる知識を持つかが大事である。坊勢では、母親が最初に教えるのは、勉強ではなく泳ぐことである。島の岸壁から落ちたとしても、少なくとも泳げる子どもは助ける時間があるが、泳げない子どもは沈んでしまい、助けることができない。まずは泳ぐことから教えて、年を重ねるごとに勉強を教えて、その次に自然界を体験する。子どもが成長し、社会人になったときに、体験をしていないと非常に危険である。まずは体験することが一番大事だと思う。

坊勢のような田舎の人はもともと親戚関係で繋がっているため、地域外の人にはあまり近づかず、話しかけない。そのうち打ち解けていくが、最初はよそ者意識で見えてしまう。今、人間関係で繋がりが薄れているのは、親切にしたものの、それが仇となり、事故に繋がったとき、損害賠償などの問題になるためだと思う。以前は自分たちの家族がどこかへ遊びに行くときに、近所の子どもも一緒に連れていくことも多かったが、最近は、もしもの事故があったら困るため、そういうこともなくなり、絆が離れていく状態になっている。個々の特性が生かされ自由になることは良いことだが、自由に様々な意見が出てくると、自治会としても非常にまとめにくい状態になってい

ると思う。みんなで仲良く、お互いに助け合うことの大切さは分かるが、昨今は些細なことで問題になるため、それならば関わらない方がいいという風潮がある。こうした非常にやりにくい状態にならないためにもビジョンは必要だと思う。

#### 〈委員〉

暮らし部会で議論する中で、キーワードは「地域コミュニティ」であると思った。時代によって価値が変わっていく中での、人々のライフスタイルや働き方、価値観等の変化が気になった。また、人口減少下において、技術革新が進むことが考えられるが、AIが人間をサポートできるようになるまでは、外国人の力も借りなくてはならない。何年先かは分からないが、地域の外国人とのコミュニケーションのあり方も大きく変わると思う。そうしたことも踏まえて、30年後を展望すると、それぞれの地域によって考え方も異なることから、「すごいステキなお隣さん」のような核となるおせっかいな人が中心になって、地域コミュニティを形成していくことが重要だと感じている。地域における繋がり希薄化が進む中、そうした人たちの力を借りることも、30年後を見越した時に必要だと思う。

#### 〈委員〉

人口減少が気になるところであり、特に働く人口が今後大幅に減少していくバランスの問題が大きなポイントだと思う。出生率等もこれからもかなり低下していき、中播磨地域も人口が減少し続けていくと思う。そうした中で、特に介護や地域福祉は、なかなか機械で対応できるものではなく、人が携わる必要があるため、介護・福祉人材の育成・確保は大きなポイントの一つにしてほしい。福祉分野の専門職の育成には、長い期間を要するため、長期的にしっかりと対応していく必要がある。いびつなバランスの人口減少はすぐに改善することはできないため、それに見合った対応策を検討していく必要がある。行政でも、そうしたポイントをしっかりと検討してほしい。

第一次産業について、私の町内では50軒ぐらいが農家であるが、実際に営農しているのは半分ぐらいだと思う。私も兼業農家だが、10年後や30年後はどうなっているのだろうと町内でいつも話している。耕作されずに放置され、荒れてしまっている田畑が多々あるが、特に兼業している人がこれから困ると思う。これは大きな課題だろうと考えているが、今回のビジョンの議論からは取り残されているように感じる。兼業農家は、収益を上げたり、儲かるものではなく、半分は趣味だと思わないと話が進まない。しんどいと思いながらの趣味をこれから何年間かは続けていかないと仕方ないが、次の代がないという大きな課題がある。この問題にどう対応するべきか。答えの出ない地域の大きな課題であるため、できればポイントに挙げてほしい。

#### 〈委員〉

すべての部会に共通して、2050年に向けて、これから一番変わってくるのは先端技術だと思う。観光交流部会の検討結果では、「ありのままを観光資源に」と「整理した上で壊す」が、発想を変えた意見であり印象に残った。暮らし部会では、健康づくり・地域福祉分野での「人との繋がり」や「生きがいくくり」が印象に残っている。教育分野では、「小規模校のメリット」が、発想を変えた逆転の考え方だった。中播磨地域デザイン案にもあったが、「人」と「地域」が一番大事になってくると思うので、

発想を変えた考え方で、地域コミュニティを少しずつ変えながら、個性豊かな人が育っていく中播磨になればいいと感じた。

農業分野では、大規模だから儲かるかということ、そうは思わない。儲かる農業を目指すべきであり、環境保全の面から耕作放棄田の問題を考えると、大規模農業も一つの大事な役割を担うことになる。先ほど出た兼業農家の話も大事になると思う。山登りやサイクリングを趣味で楽しむのと同様に、休日に農業ファッション等を楽しみながら行う「趣味の農業」も伸びしろがあると思う。高齢者にとって「趣味の農業」は、やりがいに繋がるとともに、適度な運動になり健康にも繋がると思う。

#### 〈委員〉

暮らし部会では、いずれのテーマも共通して「人づくり」や「地域づくり」が関連していると感じた。「人づくり」「地域づくり」に向けては、リーダーシップを持って地域や組織をまとめるリーダーを育てることが大事だと思う。

現在、日本人は生産性が世界と比べて低いと言われている。長時間働くことが日本人の特徴だが、今よりも人口減少・少子高齢化が進む2050年に向けて、個々のワークライフバランスを実現するためには、二次交通問題の解消や脱炭素社会も視野に入れながら、AIやIoT、ロボティクス等の先端技術を活用して、産業や労働力、仕事における生産性を高めることが大事である。生産性の向上により、「人づくり」や「地域づくり」にみんなが力を注ぐことができる社会になれば、ワークライフバランスも達成でき、それが循環して、最終的には心豊かな中播磨に繋がるのではないかと思う。

#### 〈委員〉

中播磨地域デザイン案を見て、なるほどと思うのが、「人づくり」「地域づくり」を掲げているところである。姫路市の新総合計画では、「人づくり」「地域づくり」に合わせて、「活力づくり」と生活を支える「土台づくり」の4つを提案し、それに基づき姫路市の取組を進めていこうとしている。おせっかいにも通ずる「すごいステキなお隣さん」は非常に良い考え方だと思う。「コンパスライフ」も非常に的を得た考え方だと共感した。

観光交流部会の報告でもあったが、2050年のビジョンには、30年後の価値観が必要というところは参考になった。いずれの部会でも、地域コミュニティの疲弊や弱体化が議論されており、大きな中播磨地域を支えるためには、校区や地域の自治会といった小さな地域の力を高めていく、維持していく、再生していくことが課題だと思う。そのためには、学校と地域を繋いでいくことが重要である。個人の考えになるが、移住・定住者を迎えるためには、数ある公共施設の中で、学校をコミュニティの核となる施設として育て、みんなで守っていくべきだと思う。ただし、少子高齢化の中で、行政の立場としては、効率性の部分と地域の再生の部分を考えていかなければならない。産業部会では、諸刃の剣という言葉があったように、一方がもう一方を阻害してしまう要因もあるので、バランスをとった政策も大事だと考えている。

今後のビジョンの重点テーマや考え方については、30年後をにらめば、今の子どもたちを地域と一緒にどのように育てていくかという教育の部分が大事だと思う。また、中播磨は防災意識が低いという意見もあったが、姫路市の市民意識調査においても、

防災に対する備えができていると答えた人は非常に少なかった。南海トラフ巨大地震や山崎断層があっても、そういった状況なので、地域の共通認識として持つ必要があると思った。

#### 〈委員〉

暮らし部会の議論では、地域福祉や防災においても、地域に埋もれている人的資源を上手く拾い出して活用する組織づくりが大事だと感じた。自分たちの暮らしは、自分たち地域で守ることが大事であり、ご近所力や、人、地域、地域のリーダーといったことがキーワードになってくると思った。

観光交流部会の「関係人口の創出による地域活性化」については、私自身も関係人口の一人であると思い、共感した。私は福岡県出身で、30年間姫路市に住んでいたが、昨年、西播磨のたつの市に引っ越した。心のどこかでよそ者になってしまい、中播磨での活動は控えた方がいいのではないかという遠慮の気持ちもあったが、中播磨には一緒に活動してきた仲間もいて、この地域が大好きなので、何らかの形で関わっていきたいという思いがあった。これからは関係人口という立ち位置で地域づくりや、活動の機会を作りながら、何かできることがあれば積極的に関わっていきたいと思う。

今は引っ越して間もないこと、そしてコロナ禍ということもあり、中播磨でも西播磨でも交流がなかなかできていないが、コロナ禍が収束し、日常に戻ったときに、離れたからこそ気づく中播磨の良さや魅力を再認識する日が来ることを楽しみにしている。私のように、何らかの事情があって、中播磨から離れてしまった人たちが、他にも多くいるかもしれないので、そうした人たちにも第2、第3のふるさととして中播磨のファンになってもらい、地域づくりに関われる場所や参加できる場所があればいいと思った。

#### 〈委員〉

中播磨地域デザイン案が、非常によくまとまっていると感じている。人と地域という大きな2つの要素で、5つのテーマがあるが、その中でも、若い世代をどう育成していくかというところが重要な課題の一つだと思う。学校や地域での教育を通して、地域に誇りを持つふるさと意識を醸成することによって、例えば県外へ進学した若者がUJI ターン等で戻ってくることに繋がり、人口減の対策にもなると思う。この中播磨地域デザイン案をベースに議論がもっと深まっていけばいいと思う。

中播磨が誇るものづくり産業については、先端技術の活用も大事であるが、F1 技術など特定の分野に特化したニッチ産業をもっと引き立てていくような視点を入れてもいいと思う。そうしたことが、例えば理系女子等の4年制大学を卒業した子どもたちが中播磨地域に帰ってくる仕組みに繋がっていくのではないかと考えた。

#### 〈委員〉

農業について、AI 等を活用した大規模農業は、中山間地域では難しいのではないかと考えた。そのあたりが退廃し、放棄田が出てきている。今から20~30年先には、世界的に食糧不足に陥ると考えており、今、日本は穀物の80~90%を輸入しているが、これがこの先同様続くか不安を感じている。中山間地域の山の方の水田は水管理も大変で、なかなか省力化もできないので、畑にして穀物を作ることで、少子化に伴う人

手不足を解決できるのではないかと思う。水稲中心の国の施策を見直していく必要があると思う。

ビジョンは、作った後の展開方法を見据えて策定しなければならない。今までは作りはしたが、そこで終わってしまい、一般の市民・町民になかなか伝わっていないので、新ビジョンは、みんなに広まることを考えて、作る必要がある。兵庫県が描いた将来像が、我々の集落にも伝わるよう、伝達の担い手になりたいと考えている。

#### 〈委員〉

暮らし部会における子育て・教育のテーマでは、教育については深掘りをしたが、子育てについても少し触れた方がよかったと思った。子育てについては、市川町の課題として、令和元年度に幼稚園と保育所が統合され、町立のこども園が2園オープンしているが、開園してまだ年数が浅いため、保育教諭の研修に力を注いでいく必要があると考えている。また、今月から神崎郡内の3町の病児病後児保育施設の利用が可能となったが、女性が働きながら子育てできる環境整備や子育て世帯の経済的負担の軽減等について、今後もニーズに応じて進めていく必要があると思う。

観光交流部会については、これからの観光の在り方として、体験を観光資源として活用する点に共感した。感染症対策と新しい技術をあわせて、自宅にいながらもバーチャル観光できるようなコンテンツもできているが、受け入れる側としては、やはり観光地へ足を運んでもらい、体験したり味わったりしてもらおうための方策を考えていかなければいけないと思う。

中播磨地域デザイン案については、課題として「自然が豊かな地域に景観を損なうような建物（倉庫等）が増えつつある」と挙げられていることが気になった。市川町では最近、倉庫業が進出しているが、国道沿いで廃墟となり、景観的にも悪かった建物を取り壊して、きれいな倉庫を建設することで、見栄えや景観が良くなった場所もある。それよりも、太陽光パネルの方が景観を損ねている印象がある。SDGsや再生エネルギー活用の観点からは必要であるが、景観や住環境との妥協点を見いだす必要があると思う。目指す将来像については、上手くグループ分けされているが、将来像の実現に向けてどういう施策に取り組んでいくのかが難しいと思う。特に2番目の「互助共助」のように、人の意識変革を目指すものは取り組み方を相当考える必要があると思う。キャッチフレーズについては、ひねりが効いている反面、内容をイメージすることが難しくも感じたが、それが興味を引くための狙いなのであれば、掴みとしては良いと思う。「人づくり」の柱の「井の中の蛙」という言葉は、悪い例えで使用されることが多いので、将来像の表現としてはどうかと思う。視点としては素晴らしいが、地域に特化した個性的な人づくりを進めるという意味であれば、例えばキーワードとして「ガラパゴス化」という表現も面白いのではないかと思う。

#### 〈委員〉

すべての部会に共通して横串を刺せるキーワードとして「域内交流」があると思う。観光交流部会では、いかにして外から人を呼び込むかという議論がされたが、中播磨の人が姫路市を含めた様々なコンテンツを観光したり交流したりする「域内交流」もその一つ。産業部会でも、工場ツーリズムや農業・漁業体験、環境学習、あるいは趣

味の農業など、「域内交流」に関わるような様々なことが議論された。暮らし部会の教育でも、地域のことを学ぶことが郷土愛に繋がっていくという議論が行われた。中播磨の人が中播磨のことを体験して楽しむ・学ぶことが、収益にも繋がり、郷土愛にも繋がり、産業の担い手づくりにも繋がるということで、「域内交流」は非常に重要な共通するテーマになると思う。

産業部会での「豊かな体験」というキーワードが非常に印象的だった。リッチな体験は心に残り、いろいろなことを考えていく上でも重要だと思う。今回のコロナ禍で体験したことだが、オンラインでのミーティングはリッチではなく、表面だけのやりとりであるのに対し、本日のこの会議ではリッチな体験ができていると思う。単に音声や映像の情報だけではなく、リアルは人の様子が伝わるため、リッチな体験ができるリアルや身近さの強みを生かしていくべきである。一方で、危険等の理由でリアルでは体験できないようなことが、デジタルアーカイブ等の最先端の IT 技術を使うことで体験ができる。体験を豊かにする上では、リアルな体験と合わせて、デジタルをうまく活用することも重要である。

最後に、このビジョンをどのようにして発信していくかが大事だと思っている。普通は、冊子を作っているところどころに配られることになる。それを作った関係者は面白く読めるかもしれないが、それ以外の人ほとんど見ないと思う。読者側の問題と言えなくもないが、せっかく作るのであれば、見せ方に工夫をした方がいいと思う。私が提案したいのは、参考資料5に書かれている1から6までの構成を、あえて第二部にして、第一部は少し趣向を変えること。第一部で面白さを追求して読んでもらい、そのあと第二部で内容を理解してもらおうような冊子あるいは発信方法を考えてはどうかと思う。

#### 〈委員〉

県レベルで検討している新全県ビジョンに対し、我々が今検討している中播磨新地域ビジョンには、中播磨の具体的な事象をどれだけ表すことができるかに懸かってくると思う。これからキーワードに肉付けする際には、今、中播磨で起きていることをしっかり盛り込んでいけたらと思う。委員からも提案があったが、書かれていることに共感が持てないのは、接点がないためである。接点がないと離れてしまうので、新ビジョンには中播磨であることが前面に出たらいいと思う。今後、骨子案の検討にあたり、本日出たキーワードを参考に重み付けを行っていきたいと思う。

(以上)